

## 第5学年「社会」学習指導案

授業者 岩坂 尚史

2月15日(土) 4階A室 10:00~10:40 (話し合い 11:00~11:45)

### 1 単元名 人工知能と向き合う～情報を受けとる<私>と<私たち>～

#### 2 単元について

我が国の産業と情報とのかかわりについての学習をする本単元において、より市民性を育むためにどうすればよいか。

まずは、放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを子どもたちが理解することを目指していく。そして、それらの産業だけでなく、個人が情報を発信する事例について考えていく。近年の状況としてSNS等の普及が広がり、より多くの人が情報を発信できるようになっている。しかし、正確性や信憑性等について吟味された情報かどうか判断しにくく、その情報によって社会に大きな影響を及ぼす例もあり、社会全体で考えなければならない問題だといえる。

情報通信技術の進展は発信する際だけでなく、様々な情報を受け取る状況にも変化をもたらしている。インターネットを通じて情報を得る際には、人工知能がビックデータを分析し一人ひとりの嗜好にあった情報が送れる(レコメンデーション)ようになり、自身の関心以外の情報に触れる機会が少なくなっている(フィルターバブル)。また、生成AIがもたらす文章や画像等には誤った情報が含まれる(ハルシネーション)ことも懸念しなければならない。そして、それらを利用した発信者となる可能性もある。

そして、情報通信技術の進展は、民主主義社会にも大きな影響を及ぼしている。2013年の公職選挙法の改正に伴い、インターネットを使うことが解禁された。近年の選挙では、テレビや新聞等の公共性の高いとされていたメディアから発信される情報とSNS等から入手する情報の内容が両極端となり、選挙結果の分断が大きくなることも生じている。情報の受け手としてルールやマナーを守ること以上に、情報にいかに向き合っていくかについて民主主義社会を担う一員としての判断が重要となる。

本単元を通して、次代の民主主義社会を担う子どもたちとともに考えたいことは、情報源の出所だけで信頼できる情報だと決めつけずに複数の情報から判断しようとする事、自身の価値観や信条とは相違する情報についても考えようとする事、情報化の進展により様々な情報を得やすくなることで多様な声に触れやすいということを再確認することなどである。そして、この「社会」での学びが子どもたちの生活やコミュニティを見つめ直すきっかけにもなってほしいとも願う。

それは、普段モバイル端末を利用している可能性が高いそれぞれの<私>が、他者(ひと)・資料(もの)・社会的事象(こと)とかかわり、対話することを通して複眼的に社会的事象を捉え、社会だけでなく自己のあり方を更新することにつながる。これは、<私>から<私たち>へと思考が広がっていくことであり、社会部の研究主題である「生活社会を問い直す」とかかわりが深いと考える。

#### 3 学習指導計画(13時間目/全14時間)

第1時…<私>や<私たち>と、情報についてのかかわりについて考える(2時間)

第2時…放送局を事例として、放送、新聞などの産業は、多種多様な情報を収集・選択・加工して提供していることを理解するため、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、調べる(4時間)

第3時…インターネットから得る情報について調べ、社会への影響について調べる(4時間)

第4時…それらの情報についてメリット・デメリットで整理する(1時間)

第5時…情報を受け取る<私>や<私たち>はどのように向き合っていけばよいかについて考える(本時)

第6時…情報の向き合い方はどうあるべきかについて複眼的に自身の意見を書く(1時間)

#### 4 本時の活動について

##### (1) 本時のねらい

情報のメリット・デメリットを整理したことを踏まえ、それらは本当にメリットなのかデメリットなのかについて、<私>の思いを聴き合うことを通して複眼的にとらえ、<私たち>の視点で考える。

##### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 産業や個人が発信する情報についてメリット・デメリットで整理する。	○問題点をわかりやすく整理して提示する。
2 それらが本当にメリット・デメリットなのかについて互いの考えを聴き合う。	○「発信される情報をいかに受け取るかが重要」「フィルターバブル等は本当にデメリットか」等について考えることができるようにする。

#### □授業後の話し合いで話題にしたいこと

判断のもととなる情報の真偽が難しくなる次代では、何を根拠として社会問題を考えていけばよいか。